

茨城県立水海道第一高等学校生徒の皆さんへ

先日の常総地域を襲った豪雨により私たちは思ってもいない甚大な被害を被りました。本校でも80名を超える校友が被災し、現在もまだ避難所で不自由な暮らしをしている皆さんも沢山います。普段は穏やかな流れで私たちに豊穡をもたらしてくれる鬼怒川が見せた別の姿。不気味に渦巻く流れに押し流される家々。刻々と変化する状況を前にして、何もできないことにもどかしく心を痛めた時間。数年前に東日本大震災で「身体に感じ、目に見える恐怖」を体験しているだけに、この先一体どうなるのかという「先の見えない恐怖」が、私たちの「不安」を倍増させたかもしれません。

こうした事態において私たちが選択することができる道は、二つです。

一つはただただ恐れ立ち止まってしまうこと。手に余る悲しみを抱えた時には、これは大切なことです。時間が私たちのどうしようもない喪失感を癒してくれます。まずは心を落ち着かせ、淡々とした穏やかな生活につとめましょう。

でも、そうしてばかりはられない現実があります。家や生活の糧を失ってしまった方々の生活の再建は避けられない急務です。そうした現実を前に「何かをしなければ、何かをしたい」という焦る思いと、「では、どうすればいいのか?」という思いに多くの諸君が悩んでいるかと思えます。この水害で止ってしまった現実を動かすには、皆さんの強い覚悟と決意と行動が必要です。

二つ目の選択肢は、一步一步できることから少しずつ具体的に歩むことです。具体的な行動が心の傷を癒してくれます。

今回の災害で本来語り続けられるべき多くの「物語（ストーリー）」が突然途切れてしまいました。被災された方一人ひとりにはそれぞれに描いていた夢があったはずで、無常にも失われてしまったそれぞれの「物語」。その「物語」を豊かに紡ぐこそが、この地域に生きる私たち本校生の努めです。

そして来るべき明るい未来のために、英知を養い「協働」して私たちの社会の「あるべき姿」とは何かということを考えていきましょう。課題は山積しています。防災、医療、都市計画、教育、福祉等あらゆる分野において皆さん一人ひとりの資質と個性を最大限に発揮して、これらの課題を解決することが失ってしまった多くの「物語」を再生する道だと私は信じます。

決して私たちは無力ではありません。

これを機会にこれまで先送りにしてきた課題を、具体的に一つひとつ解決していきましょう。言い訳は許されません。今こそ校歌にある「負けじ心を振り起こせ」を口ずさみながら本校生としての誇りと自覚を持って、毎日の生活を過ごして欲しいと思います。繰り返して言います。こういう時にこそ私たちの生き方が問われるのだと思います。

私たちも全力で皆さんの支援に取り組みます。何か不安なことがあればぜひ私たちに相談して下さい。

では、充実した自宅学習として下さい。もし時間的・物理的に可能であれば無理のない範囲でボランティア活動にも参加して下さい。

一日も早い学校の再開と元気な諸君との再会をこころより祈念しています。